



No. 352

H28年11月1日

— 発行 —

〒869-1217

熊本県菊池郡

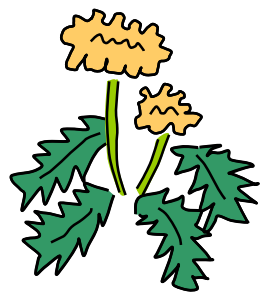
大津町森 54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「時代が変われば…」

副施設長 木下 昭二

古い話ですが、私は田舎育ちで、また実家が農家だったという事もあり、幼少期から「ご飯粒は、1粒残さず食べましょう！」と親に言われて育ってきました。それが当たり前だと思っていましたし、何の疑問を懐く事ありませんでした。無間違っていても思っています。その為、利用者さんへの食事の際も、その“食べ物”を大切に思うを伝えようと、当然の如く「ご飯粒は、1粒残さず食べましょう」と言いながら支援していました。

ところが、もう数年前の話になります。食事支援の際に、私にとって“耳を疑うような、ビックリするような言葉”が耳に飛び込んできました。それは、利用者さんのお茶碗に残ったご飯粒を綺麗に食べている時の言

葉でした。その言葉は「かつれ子ではないんだから、そんなにきれいに食べなくても良いですよ！」（その時の思いが伝わるように、原文のまま記載させて頂きました。不適切発言等に当たるといふ発言でした。時代が変われば、考え方もこんなにも変わるのか：と思いつつも、私自身はその意味を理解するのにかかりの時間がかかってしまい：というよりも、今その時の事を思い起こしてみても、“しばし時間が止まって、思考回路が一時混乱してしまった”という表現が、よりのを得ている状況でした。

私達三気の里のメンバーは、給食の委託業者さんの迅速な対応で、一度も欠食する事なく食事をいただく事が出来ました。また、まだ強い余震が続く中でも、数日後には県内外の同じ施設関係の仲間の協力を得て、利用者さんに食のイベントを開いて頂き、楽しい時間を提供してもらう事が出来ました。しかし一方で、報道等によると、避難生活を送られている方々の中には“1日におにぎり1個”しか行き渡らなかつた：といった話も聞きました。そんな中でもきっと日本の至る所では、消費期限切れの商品が多量に廃棄されている：という状況が日常的に行われていた事でしょう。もっと視野を広げて言うならば、この世に生を受けても、飢えによって幼少期から5歳を迎える事が出来ないまま命を亡くしている子

供達が、毎日世界にはどれだけいる事でしょう。（そう言っている私も毎日食にありついており、偉そうな事を言える身ではありませんが）

日本は、世界的に見ると、今は経済大国という位置付けですが、今後その状態を保って行けるという保障はありません。

資源にしても、食糧・食材にしても、その多くを輸入に頼っている現状の日本では、ひと度世界の情勢が変われば、どう変化するかは、誰にも予測がつかえません。諸説ありますが、お米一粒には七人の神様が宿ると言われており、当然、神様を粗末に扱う事は出来ません。勿論お米だけでなく、食べ物を大切にすると、という最低限の事は考えなければなりません。

飽食の時代・現代の日本において、このような話しをするこゝと自体、ナンセンス（意味をなさぬ事）なのかもしれません。しかし例え「時代が変わっても！」語り繋いでいかなければならない事は、これからもしっかりと伝えていきたいと思えます。

11月



1班：「元気が一番！」

季節も秋になり蒸し暑い日からだんだんと肌寒くなってきました。朝晩は肌寒く、日中は暑い日が続き、体調管理が難しい時期です。利用者の方数名が風邪を引かれたりされましたが、1班は誰一人体調を崩すことなく元気に過ごされています。日々、作業を頑張ったり、散歩をしたりなど運動をして体力を維持しています。その中で月に1度ジュース購入があり、ジュース購入の日を皆さんとても楽しみにされています。1人ずつ好きなジュースを買いますが、待ち切れずにお金がまだ入っていない自販機の飲みたいジュースのボタンを何度も押される方もおられます。ジュースを手を持った時の表情がとても嬉しそうです。作業終わりのジュースは格段と美味しいでしょう。飲み終わった後はまだ飲みたい表情をされる方もいれば満足そうにされている方もいて様々でした。支援員として利用者の方が嬉しそうにされている表情をみると嬉しく思います。今後も利用者の方が楽しみにされている事を私も一緒に共有していきたいと思っています。また、体調を崩しやすい時期に入りますので健康に気をつけこれからも元気に過ごせるよう、スタッフも一緒に運動等して体調管理に努めていきたいと思っています。

支援員 西本 綾子



2班：「素敵な思い出」

皆さんにとってはとても楽しいイベントの一つでもあるレクリエーションが、10月19日(水)にありました。今回は天草に行きました！！楽しみにされていた方、少し緊張されていた方などそれぞれの表情が見られました。天草の名物でもある海鮮丼、タコ飯を食べて来ました。嬉しそうに皆さん食べられていました。その後、シードーナツ付近の土産屋を散策しました。「塩パン」が有名なパン屋さんに行ったり、また海沿いに行き海を眺め写真を撮るなどグループごとに、違った散策を楽しまれていました。皆さん素敵な笑顔で楽しまれていました。残念なことに、すっきりとしない天気でしたが、天草にて撮った集合写真は2班の素敵な思い出として残りました。今年度もあと5ヶ月ですが、また2班全員で作業に行事と楽しみながら頑張っていきたいと思っています。

支援員 甲斐 浩美



3班：「頑張ったラジオ体操」

気持ちの良い秋空のもと、楽しみにしていた運動会が開催されました。私は開会式でHさんと一緒にラジオ体操をする事になり、事前に二人で練習をしました。Hさんは練習の時からとても上手で「本番も頑張らしましょうね」と話すと「はい」と元気よく返事をされました。ラジオ体操本番、Hさんはとても緊張されていましたが、音楽が始まると力強く、自信を持って身体を動かしていました。体操が終わるとホッとされたのかHさんの表情から安心した様子が見られ「お疲れ様でした。とても上手でしたよ」と伝えると「はい」と嬉しそうにされていました。その後Hさんは競技にも真剣に取り組みられ、ゴール目指して元気よく走っていました。この日はとても暑い中、最後まで競技に参加し、頑張っている姿をご家族に見て頂く事ができ、本当に良かったと思います。来年もまた力を合わせて元気に運動会を盛り上げていきましょうね。

支援員 武田 直美



4 班：「一瞬一瞬を大切に」

9月29日に病院を退院され三気に戻ってきたMさんは、入院中殆どベッド上で過ごされていた為か、以前より体が細く笑顔も少なく見えます。先に退院されていたUさんはお変わりなく見えても、園内では高齢で移動中の転倒、食事中の誤嚥が予測されます。

今年の夏は酷暑で、秋になっても例年の気候になりません。僅かな気温の変化や環境の違いで体調を崩しやすい利用者の皆さん。特にMさんは食事中や歩行中、いつ発作が起こるか分かりません。「Mさん、今発作が起きたよ。立とうとしたよ。」と気付いたことを教えてくれる4班利用者さん。一瞬一瞬を大切に生きているMさんの事を周囲の人も見守っています。皆さんの笑顔がたくさん見られるような支援や配慮をこれからも続けていきたいと思ひます。

支援員 荒川百合子



5 班：「全員参加での作業」

私たち5班の主な仕事は、手もぎ作業、アルミ缶潰し作業です。手もぎ作業とは、プラモデルの部品を切り離す作業と同じで、5班全ての利用者の方々が参加できる作業です。もいだ後の工程は製品の数を数える為、専用の治具に、もいだ製品を入れて行きます。両工程、今ではスムーズに出来ていますが、作業を始めた頃は、捻らずもいで部品が削れてしまう等、上手くいかなかった事もありました。上手くもげない方には、手を添え捻る動きを繰り返す事で少しずつ捻る動きができて始め、今では部品を削り取る事なくもげるようになっています。同時に作業に掛かる時間も、作業を始めた頃からしますと短縮し作業量を増やす事ができてきています。全員が参加できる仕事は少なく、仕事内容によっては参加できない利用者の方も出てきますが、手もぎ作業は全員が役割を持てる作業なので時間を持て余す方が無くなりました。今後は新たな作業にも挑戦していき、より活気ある職場となるように取り組んでいきたいと思ひます。

支援員 久米 善久



「高齢化対策委員会」

10月も終わりに近づき、ようやく涼しくなってきました。この夏は酷暑でしたが、水分補給に合わせて湿度の管理に取り組んだことで、熱中症を予防することができました。環境調整することの大切さも感じながら、やはり積極的に体を動かしていきたいところ。月に1回指導に来ていただいている村上光昭先生の元気体操を、なんとか日常に取り入れたいと模索しているところです。先日、スポーツクラブで元気体操にチャレンジしてみると、普段はなかなか意欲的な姿勢を見せないSさんが、意外にもしっかりと体の動きを模倣して、楽しげに気持ち良さげに取り組まれていました。班で指導していただいた時には殆ど体を動かさずにいたので、できないと思ひ込んでいたのですが、少人数のグループに分けて、指導者の動きが見える距離で、動きを確認できる速さでといった工夫をすれば上手く取り組みそうです。少しずつでも効果的な体操に取り組み、冬の寒さに負けない体を作りたいものです。

統括課長 平川 聖子



【家族便り】

「ダブル成人式を終えて」

上田 タキ子

友和が自閉症と診断され、本当にどうしたらいいかと悩み、手探りでいろんな事をした事を思い出しました。その中のひとつに少しでも我慢できるようなればと小学校4年生の時にスーパーに通い、友和に何も買わないで帰るといふ試みを行いました。大きな声で泣きわめき、寝転ぶ友和を無理やり連れて帰る事を毎日繰り返しました。だんだんと泣かなくなり、4日目には泣き止み、5日目に「買っていいよ」の言葉に喜んでお菓子の所に行き、笑顔いっぱいでお菓子を持ってレジへ走って行きました。レジの方より「買えてよかったね」と声をかけて頂いたことを思い出しました。いろんな方に迷惑はかけましたが、この試みでいろんな事が我慢できるようになり、友和と一緒に外食や買物に行ったりする事ができるよ

うになり、笑顔もいっぱい見ることができるようになりました。早いもので友和が三気の里に入所して23年が過ぎ、自宅で過ごした年月より三気の里での生活が長くなりました。今でも友和が初めて三気の里に入所した日を鮮明に覚えています。入所して一週間、迎えに行くと、私の心配をよそに笑顔で飛び出してきました。スタッフの方からも「大丈夫だったですよ」の言葉を頂き安心しました。今でも三気の里に送っていくと、一度も嫌がることなく喜んで走っていきます。パニックや発作を起こし入院、薬の調整、足の骨折など、いろんな事があった23年間で

した。これからも三気の里のスタッフの方々に迷惑をおかけするとは思いますが、三気の里で穏やかに過ごして欲しいと思っています。先日、ダブル成人式という

ことで、1班のスタッフの方々よりお祝いメッセー

ジの入ったアルバムを頂きました。アルバムを表紙に笑顔の友和の写真があり、他にも亡くなった主人と一緒に成人式、三気の里での友和の笑顔いっぱい写真がありました。友和も帰宅するたびに、ここにこしながらアルバムを観ています。これからも友和の笑顔を多く見る事ができるように、私自身身体に気をつけて過ごしていきたいと思えます。

【親善スポーツ大会】

支援員 重岡 瑞希

10月2日に上天草市松島町の総合運動公園にて開催された親善スポーツ大会に参加しました。競技はグラ

ドゴルフに参加しました。毎年楽しみにされているFさんは、今年は開催されるのか不安に思われていましたが、いつも通り開催され、参加できたことをとても喜ばれていました。この日のためにクラブ活動や、休日にグラウンドゴルフの練習を頑張られました。当日は晴天にも恵まれ、立っているだけでも汗が噴

き出る気候でした。皆さん車中でもとても楽しそうに、試合への意気込みを話されていました。試合はいつも練習している園のグラウンドと違い、障害物があったり、曲がりくねったコースであったりした為、なかなかスコアが伸びずに悪戦苦闘していました。しかし、一生懸命頑張られていました。結果は惜しくも1点差で負けてしまいました。とても悔しそうに、「来年はもっと練習して勝つ！」と意気込まれていました。暑い中、お疲れ様でした。

頑張りました(^^)／



